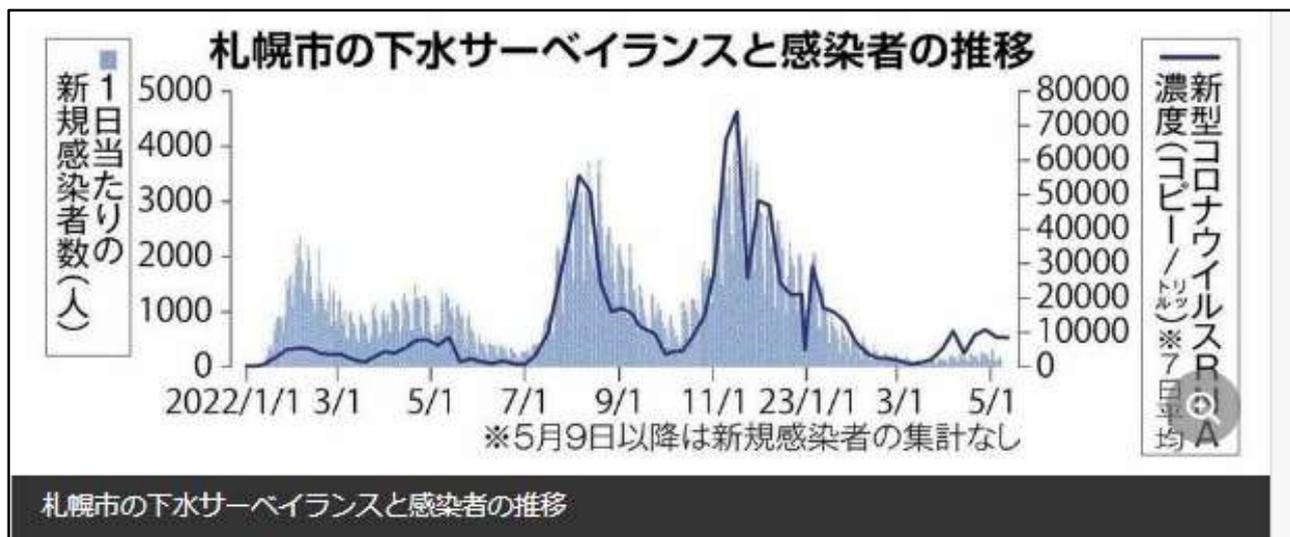


## 札幌市内コロナ感染横ばい下水疫学調査オミクロン派生型 XBB 系統主流、再感染に注意

5/20 北海道新聞



新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが5類に移行後、札幌市が18日に初めて公表した定点医療機関の平均患者数は全道平均を下回った。一方、下水を使った流行状況の調査では、5月に入ってからウイルス濃度の横ばい状態が続いているほか、一度感染した人も再感染しやすいオミクロン株の派生型 XBB 系統が主流となっている。市保健所は新たな変異株の発生を含め、感染状況を注視する方針だ。

市による新型コロナのゲノム解析では、4月17～23日に陽性が確定した9検体全てが XBB 系統だった。XBB 系統は重症化リスクは低いが、免疫を免れる力が強いとされる。

市が初めて公表した定点把握の平均患者数は3.02と、道の4.36を下回った。ただ、市が2021年2月から継続して行っている新型コロナの疫学調査「下水サーベイランス」の調査結果(5月6～12日)では、ウイルス濃度が8592コピー(コピーは単位)で、前週比1.0倍と横ばいだった。

下水サーベイランスでは、感染者が排出したふん便などを通し、下水の含まれるウイルス量から流行状況を監視できる。昨年8月ごろの第7波、12月ごろの第8波でも濃度が比例して大きく上昇した経緯がある。市は全数把握を終えた後も、流行の有無を確認する有効な手段と位置付け、サーベイランスを継続している。

### 札幌市は新型コロナ感染再拡大に備えを 道医療大・塚本教授

新型コロナウイルスの感染者数の把握方法が変わった後、市民は何に気をつけて、市はどんな施策をとればよいのか。北海道医療大の塚本容子教授(感染管理学)に聞いた。

われわれのコロナへのとらえ方が変わる新たな段階になっています。現在、市内でも感染力の強いオミクロン株 XBB 系統による感染はありますが、重症化するケースは減りました。発症しても治療薬で重症化を抑えることができます。

高齢者でも、健康であれば特段、怖がる必要はありません。これから気温が高くなるので、マスク着用による熱中症が気になります。感染予防のためにマスクを着けるメリットは低くなっていると考えられます。一方で、がんなどで免疫を抑制する治療を受けている人は依然、注意が必要です。感染を気を付けたいという人の気持ちに、周囲も配慮をしましょう。

市は、警戒すべき変異株の動向分析を続けることが大切です。感染が再拡大した場合に備え、重症化した人を確実に医療機関につなげる準備をする必要があります。市は医療機関の状態を把握し、迅速に動けるよう体制整備が不可欠です。(聞き手・蒲生美緒)